


2015-2016 国際ロータリーのテーマ
世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

2015-2016 RI会長
K.R.“ラビ”ラビンドラン
スリランカ



第1324回 アオギリ例会 平成27年9月8日(火)

『アオギリ例会』

12:20より高尾公園「被爆アオギリ二世」前にて

- ・中川博夫会長挨拶
- ・黙祷



『通常例会』

12:40より「きたっせ」にて

■ 点 鐘 12:40



■ ソング 我等の生業 池田幸平ソングリーダー

■ 会長談話 中川博夫会長



本日は、私のたつてのお願いで、アオギリ植樹場所に近いということと、10フィート運動（アメリカ国立公文書館に眠っていた核被害を記録したカラー映画フィルム of the 返還を求めた市民運動）により手に入った貴重な写真を、某所のご好意によりお借りすることができましたので、会員は元より一般市民にも見ていただきたかったからです。

1枚の写真は、100の言葉を並べるより多くの真実を語るといいます。中には生々しい写真もあろうかとは思いますが、それが現実です。真実と向かい合ってください。

私は、この写真を見ることにより、戦後70年、戦争を体験した人が少なくなり、国の形が変わろうとしている今こそ、日本人として、ヒロシマ・ナガサキの思いを風化させてはならないと認識を新たにしました。

戦争には勝者も敗者もいません。戦争は、極限状態におかれた人間がどこまで残酷になれるかの実験場にすぎません。他民族、憎しみの連鎖、国への従順とはいえ、誰が人を殺したいと思うのでしょうか？ ですから、正しい戦争などありません。戦争を抑止できなかった国・国民一様に加害者だったと認識すべきです。

私達がアオギリを植えてから2年が経ちました。皆さんにとってアオギリとはどんな存在なのでしょうか？ 今日アオギリについての認識を改めていただき、ロータリーとして何をすべきかを考える一助になればと思っています。

後ほど、稚拙な卓話をします。お聞き苦しい点があるかもしれませんが、どうかお許し願います。そして、時間の都合上、尻切れトンボになるかもしれません。それでも何かを感じ取っていただければ幸いです。

■ 幹事報告 池上幸平幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・8月29日（土）地区米山セミナーの報告 伊澤和男米山奨学会委員長



望月ガバナー、三井財団副理事長はじめ90名程の出席により、ガバナー挨拶では奨学生カウンセラーとして実体験談と今も息子さんも含め家族ぐるみの付き合いをしているとの話があり、講演では米山奨学会志村桂子氏より山形北RC「柱1本の会」支援により奨学生が新モンゴル高等学校を設立した。中国米山学友会初代会長、姫軍（ジジュン）君は毎年50万、計470万の寄付をし、日中関係に強い責任を持っている。また米山学友会は中国2地区、台湾、タイ、韓国、ベトナム、モンゴル、ネパールで活動し拡大している。

今年度寄付金は14億強となっているが今後共是非協力をお願いしたい。ホームカミング制度の積極的運用等を通じ日本と母国の懸け橋となる平和のつくり手支援、人材育成、お金は手段、交流から生まれる何か？家族と家族の交流、どう育ってくれたかまでをお願いしたいとの熱いお話でした。

三井米山財団副理事からは、米山奨学生が国際RC他地区事業として2007年正式に認められていること、米山生はRCファミリーとして扱われていること、全世界123ヶ国18,648人の奨学生が生まれていることなどが紹介され、今年度も当地区は一人年15,000円平均の寄付がされるよう協力要請がありました。

最後にソウル国際大会は近く米山セッションとして分科会、ブースも出店し史上初の試みのなので是非多数の出席をお待ちしております、とのことでした。

・8月29日（土）地区ロータリー財団セミナーの報告 池上幸平幹事

ロータリーとロータリー財団は車の両輪の関係にあります。

特に財団の事業の推進は会員の寄付によって成り立っています。今年も財団寄付は年間一人平均150ドルを目標として達成をお願いします。

・9月6日（日）RLIパート2の報告 唐澤敏治会員

・塩尻市大門 えんぱーく AM9:00～PM5:00

・A～F 6グループ各6～7名にてディスカッション形式

・唐澤、Fグループ：2600地区ガバナーエレクト佐久クラブ・松本・松本南・諏訪・軽井沢・伊那中央の6クラブ

「米山記念奨学会について議論」

①事業の使命

将来、日本と世界を結ぶ「かけ橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する。

②事業規模の大きさ

国際奨学事業としては民間最大。2015年度奨学生数730人、事業費（2014～2015年度決算）12.3億円、これまでに支援した奨学生数18,648（2015年7月）、出身国123ヶ国。

③これらの事業達成のため、ロータリアンからの寄付金をはじめ、世話クラブ、クラブのカウンセラー共々大変な苦勞をしてきているが、果たしてどの程度理解されているか。

④特に出身国はどう思っているのか。事業の使命がどの程度達成されているか、特に中国は最大の奨学生を出しているが反日運動等、理解できない発害行動が目にする。又、帰国生も日本との付き合いが自由にならない事もあると言っているが大問題ではないか。

■ ニコニコボックス

◆中川博夫 今日をお願いします。

■ 出席報告

会員数34名 出席免除会員7名 長欠会員2名 本日出席者23名 事前メイク0名
出席率76.67% 前回出席率 修正なし



◆被爆アオギリ

広島平和公園に自生しているアオギリの元の場所は、爆心地から約1.3km離れた広島通信局の庁舎中庭でした。

原爆投下時、爆心地方向に遮る物が何もなく、熱線と爆風をまともに受け、枝葉はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けてしまいました。

枯れ木同然だった木は翌年の春になって芽吹き、被爆と敗戦の混乱の中で虚脱状態にあった人々に生きる勇気を与えました。

その後、平和公園への移植で枯死するのではないかと心配されましたが、毎年種子をつけています。これらの種子は国内外へ贈られ、多くの二世が元気に育っています。

◆広島の平和のメッセージと緑の遺産を積極的に伝える運動

NPO法人ANT-Hiroshima1（協働することで大きな平和を実現できると信じ活動）とUNITAR（国連訓練調査研究所）がグリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブを立ち上げ、2011年7月から2012年6月までの1年間広島の被爆樹木の種や苗を世界中で育てていただくことで、これらの樹木を守り、その存在と意味とを広く知らせていくことを目的に誕生。

◆グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブワーキングメンバー

広島市、広島平和文化センター、園芸専門家をはじめ、多くのボランティアに支えられています。

会規約第3条には、広島の被爆樹木の種や苗の世界中への配布。広島の被爆樹木とその平和のメッセージに関する広報活動を謳っています。

◆世界平和フォーラム

2013年5月17日・18日、2012-2013RI田中作治会長による、ベルリン・ホノルル・広島で世界平和フォーラムを開催したことによります。

●基調講演 NPO法人ANT-Hiroshima1代表・渡辺朋子さん

広島に原爆が投下され、その年に14万人の人が亡くなりました。今の広島からは想像できない、色のない灰色の街です。

広島は、戦争が終わって市民の意思で平和都市になりました。被爆者の方々は廃墟から立ち上がり、世界中の多くの方々が助けてくださいました。

家族と街を再生させ、自らの人間性も回復していきました。被爆者の方々の経験は、二度と誰にも同じ思いをさせてはいけないという思いやりの言葉に集約されていると思います。広島には、戦争と平和、死と生、破壊と再生、悲劇と希望、両方の経験があります。この二つの広島の経験は、世界の人々に、私たちは変わることができる、未来を変えることができる、というメッセージを具体的に伝えていると思います。

●RI会長・田中作治氏挨拶

投げられた小石は役目を終えて水の底に沈み、底にとどまります。しかし、その石が生み出したさざなみは、どこまでも及んでいきます。

小さい石は小さな波を生み、大きい石は大きい波を生みますが、石が生み出す影響は、その石自体よりもずっと大きいものです。ロータリーの奉仕も同じです。ロータリーの活動は、実にさまざまです。どの活動にしても、私たちは目標を決めて取り組みます。しかし、実際にこれらの活動が及ぼす影響の全体を知ることにはできません。私たちは、ただ十分な成果をもたらす良い活動ができたかどうかを知るにすぎません。

◆伊那中央RC被爆アオギリ二世を植樹

田中作治RI会長の呼びかけにより、日本全国のRCに被爆樹木二世（イチョウ・アオギリ）の植樹希望クラブを募りました。

伊那中央RCは趣旨に賛同し、平成25年5月28日、高尾公園にアオギリ二世の苗木を植樹しました。

◆自主制作映画「アオギリにたくして」

監督は同名の小説を書かれた中村柊斗さん。広島平和記念公園の被爆アオギリの木の下でたくさんの人々に被爆体験を語り、感銘を与えてきた被爆者・故沼田鈴子さんをモデルに、被爆者の思いを少しでも伝えていきたいとの思いから製作した映画です。

◆プロデューサー中村里美さん

中村さんは、日本文化の紹介と共に「にんげんをかえせ」「ピカドン」等の原爆フィルムをアメリカの学校や施設等で上映する日米協力草の根プロジェクト「ネバー・アゲイン・キャンペーン」第一期民間大使を務め、アラスカ・オレゴン・オハイオ・ニューヨーク・ネバダ等で280回のプレゼンテーションを行いました。

◆沼田鈴子さんをご紹介

広島市への原子爆弾投下での被爆者の1人。広島通信局内での被弾により左脚を失い絶望に陥いたのですが、被爆アオギリを見て生きる希望を取りもどし、切断障害を抱えた身でありながら被爆体験証言活動と平和運動に心血を注いだ方です。

証言活動では被爆アオギリのことを多く語ったことから「アオギリの語り部」として知られ手います。

◆中村さんが映画製作に向かったキッカケ

二度と思い出したくない、本当は忘れてしまいたい辛い辛い体験を語ってくださったヒロシマ・ナガサキの被爆者の方々。その優しさに満ちた言葉の一つ一つが胸に刻まれました。「世界中にたくさんの方々の友達をつくってね」「憎しみの連鎖ではなく、愛の連鎖を生み出せる人になってね」「二度とヒロシマ・ナガサキを

繰り返さないで！」「授かった命を大切に生きてください」この言葉が中村さんの背中を後押ししました。

◆広島・長崎の語り部として活躍

アメリカでは、「ヒロシマ・ナガサキ」といえば「パールバーバー」がかえってくるとよく言われますが、被爆者の皆様からのメッセージを伝えた時、子供たちの反応は変わっていきました。

「今、被爆者の方々はどんな気持ちで生きてるの?」「被爆者は、僕たちのこと嫌い?」「この映画を世界中の全員に見せてください!」「ヒロシマ・ナガサキを二度と繰り返さないために、私たちが出来る事は何だろう?」今でも、あの時の生徒たちの瞳を忘れる事が出来ません。

◆シンガーソングライターとして全国行脚ライブ

これまでお世話になった被爆者の方々が年々亡くなられていく中で、2009年より被爆体験の朗読と世界にヒロシマ・ナガサキを伝える中で生まれた歌やエピソードなどによる全国行脚ライブをスタートし、沼田さんの被爆体験の朗読もしています。

◆カーネギー地球物理学研究所に被爆アオギリ二世を植樹

2010年秋、米国ワシントンの(財)カーネギー地球物理学研究所の庭に、沼田鈴子さんの最初の一堀りにより被爆アオギリ二世を植樹し、海外初のピースライブもしました。

同時に、川島康史さんが作った「微笑みの輪が広がっていきますように」と平和の祈りをこめてた像を贈りました。その被爆アオギリの苗は、今では、私の身長を超えて、すくすくと育っています。

◆沼田鈴子さん死去

自らの体験を通して、戦争の愚かさ、平和の尊さ、核の恐ろしさ、そして平和づくりの大切さを生涯伝え続けた沼田鈴子さんは、2011年3月11日に起きた東日本大震災の4ヶ月後の7月12日に永眠されました。亡くなる直前まで、被災地の方々や福島原発を案じ続け、「生きて、伝えなければ……」と、力の入らない握りこぶしを膝の上に立てて言った言葉が今も忘れられないそうです。

◆映画によりヒロシマの思い伝わる

企業からの資本等まったく入っておらず、宣伝費もない自主上映ではありますが、観てくださった方々が口コミで感動を伝えてくださり、全国に上映の輪が広がっています。

「この映画を世界中の人たちに伝えてほしい!」「私にも何か出来る事はないでしょうか」等、全国からたくさんの方の応援メッセージが届いています。

◆映画「アオギリにたくして」あらすじ

結婚式まであと三日、私の人生は一変した。

広島で被爆したアオギリの苗を全国各地で植樹し始めた田中節子。世界的に広がりつつあるこの活動に興味を惹かれたライターの小桐千草は、取材中に知り合った節子の妹から彼女の生前の日記を預かる。そこには原爆により足を失った女性の苦しみと克明に綴られていた……

実在の被爆者・沼田鈴子さんをモデルに、アオギリと被爆した一人の女性(田中節子)の奇跡の物語を実話に基づき描いていく。絶望の淵に何度も立たされながら、やがて節子は平和の語り部として生きていく決意をする。節子がアオギリにたくした思いとは……

◆ヒロシマ・ナガサキの思い

被爆者、被爆者団体は高齢化に伴い、8月6日が風化されつつあります。

◆被爆アオギリ二世は平和の象徴なのですが、希望をなくした方、生きる喜びを無くしつつある方へ、命の大切さを伝え続けてください。



破壊から再生

絶望から希望への象徴として

平和の尊さと命の大切さを伝える「アオギリ」

日本全国の災害被害者・希望を失った方々へ
「アオギリ」のメッセージが届くことを祈って。



■ 点 鐘

13:30

次回例会

9月15日(火) ゴルフ例会

8:00集合 ゴルフコンペ(信州伊那国際ゴルフクラブ)

18:30点鐘 夜間例会(海老屋料理店)